

# 在宅酸素療法を実施している 患者居宅で発生した火災による重篤な健康被害の事例

一般社団法人 日本産業・医療ガス協会  
在宅酸素部会

当協会会員会社において、平成15年10月以降に発生した「在宅酸素療法実施中の患者居宅で発生した火災による重篤な健康被害の事例」を調査・集計しましたのでご報告します。

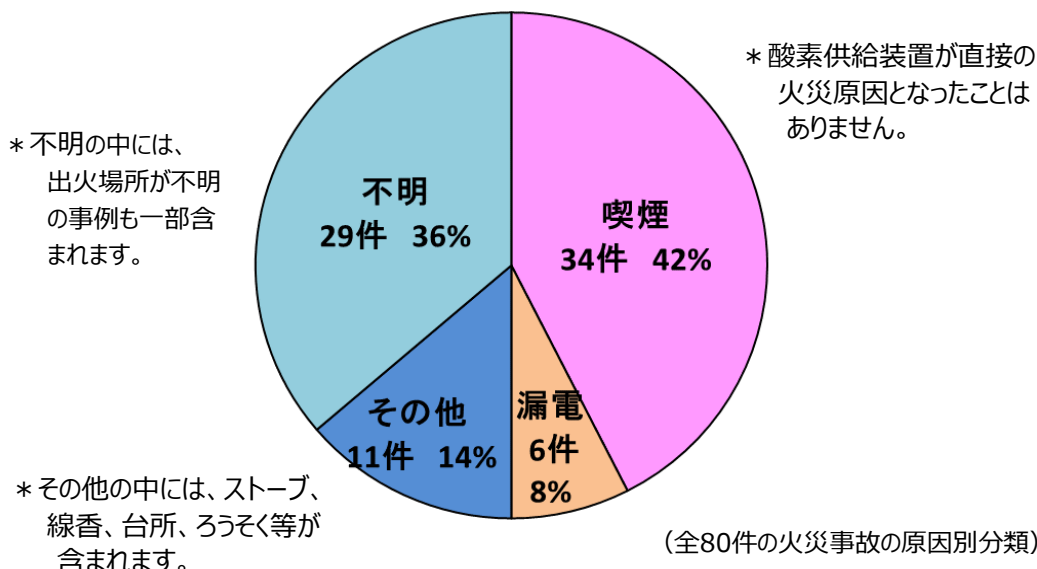
各会員会社では、在宅酸素療法を行う患者様ならびにご家族に対し、機器設置および定期点検などの機会に、安心して安全に使っていただけるよう機器の使用方法および注意点などについてご説明しています。

また、一層の安全対策が図られるよう、酸素吸入中の喫煙および火気の危険性を充分説明し、火災事故防止に引き続き努めてまいります。

## <報告の基準>

「在宅患者居宅で火災が発生し、患者様が死亡ないし重体もしくは重傷を負った場合」  
(火災の発生を喫煙のみに特定せず、原因が特定できない場合も含む。)

## 火災事故原因別の分類



(一社)日本産業・医療ガス協会 在宅酸素部会まとめ (令和元年11月末時点)

No	発生年月	場所	年齢 (性別)	被害状況	原因(推定含)
1~72	平成15年~平成30年4月			死亡 68件、重症 4件	喫煙、漏電、ストーブ他
73	平成30年6月	大阪府	50代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)
74	平成30年11月	神奈川県	70代 (男)	死亡	(不明)
75	平成30年11月	群馬県	70代 (男)	死亡	(不明：煙草か)
76	平成31年1月	兵庫県	70代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)
77	平成31年2月	東京都	60代 (女)	死亡 (焼死)	電気ストーブ引火
78	平成31年2月	兵庫県	90代 (男)	熱傷	喫煙
79	平成31年3月	京都府	80代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)
80	令和元年8月	鹿児島県	80代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)

※80は新規掲載分



火気厳禁



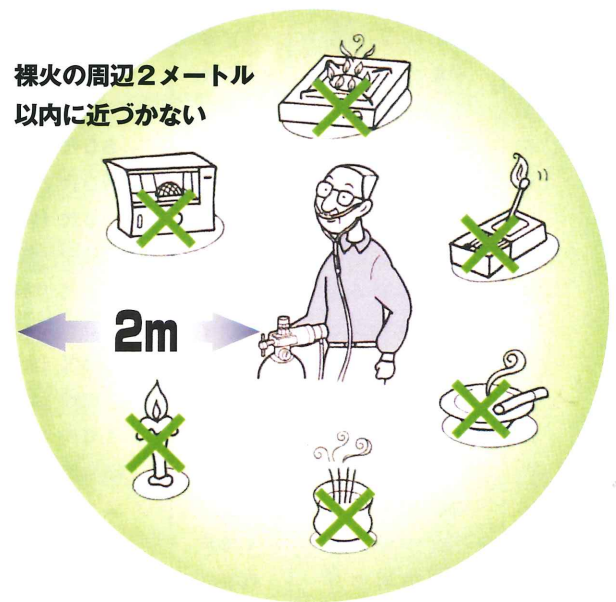
禁煙

## 在宅酸素療法での火気との距離制限

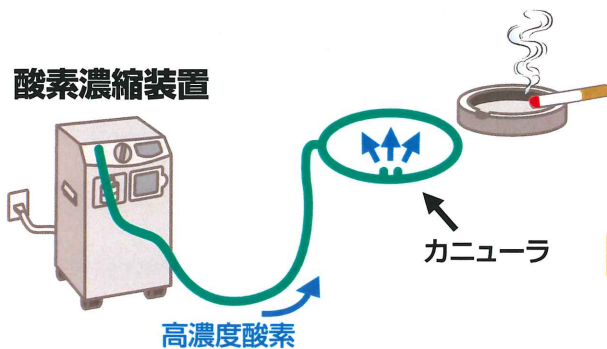
1. 酸素濃縮装置、酸素ボンベ、液化酸素容器からは …… **2m 以上**

2. 液化酸素を設置型装置（親容器）から携帯型装置（子容器）に移充填するときは …… **5m 以上**

3. 吸入用のカニューラ、携帯型の酸素ボンベや液化酸素装置及び延長チューブ、吸入中の患者自身も火気の**直近**に近寄ってはならない

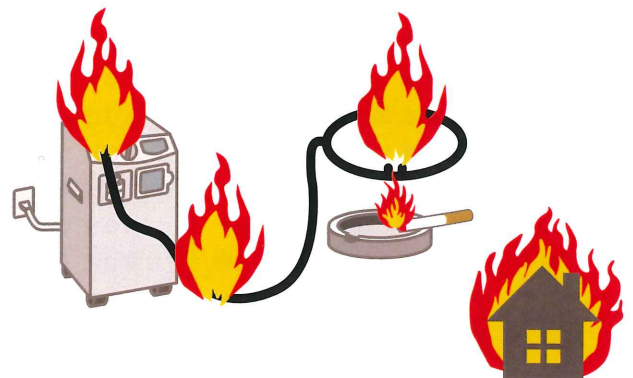


酸素濃縮装置



一度消えたはずの火が、再度点火することもあります。

タバコなどの火が近付いた場合



一度火がつけば、すごい勢いで火が燃え移ります！

出典：(独) 医薬品医療機器総合機構 医療安全情報 No4 2008年6月

※ 火気の手扱いに注意し、取扱説明書どおりに正しく使用すれば、酸素が原因でチューブや衣服等が燃えたり、火災になることはありません。